

中宮北小だより

～校長室より～

令和3年1月29日(金)
第11号
枚方市中宮北町4番1号
枚方市立中宮北小学校
校長 中田祐之(まさゆき)

将来に向かって

来週から2月になります。日本では旧暦の2月は立春を過ぎても寒さが残り衣(きぬ)をさらに着る月であるということから如月(きさらぎ)と呼ぶ説があります。新型コロナウイルス感染症の感染拡大も心配されます。まだまだ寒い日が続きます。時期的にインフルエンザや風邪等の予防にも細心の注意をはらってください。うがいや手洗いを心がけ、睡眠をよくとり、栄養価の高い食事をする事で、予防をしてほしいと思います。学校では卒業式に向けて準備を進めていく時期となります。みなさんも次の学年のことを考えながら準備を始めていってください。今の学年を振り返る方法として、この1年間で自分ができるようになったことを具体的に書き出していくという方法があります。多くのことが、できるようになっていることに気づくと同時に、次に向けて、頑張る意欲にもつながると思います。春はもうそこまで来ています。前向きにあと2か月を過ごしてください。



節分について

2月2日は節分です。節分が2月2日になるのは明治30年(1897年)以来124年ぶりになります。節分は季節を分けるという意味ですから年に4回あります。立春、立夏、立秋、立冬の前の日です。その中でも昔は立春が1年のはじめと考えられていたので最も重要視され、節分といえば立春の前の日を指すようになったようです。

節分というと豆まきですが、それでは、なぜ豆なのでしょう。こんな伝説があります。その昔、京都の鞍馬山に鬼が住んでいて、人々を苦しめていました。そこへ毘沙門天(びしゃもんてん)が現れ、豆を鬼の目をめがけて投げるように言い残しました。悪魔のような鬼の目、つまり「魔目(まめ)」めがけて豆を投げれば「魔滅(まめ)」につながるというわけです。本来は年男または一家の主人が炒った大豆をまき、家族は自分の年齢の数だけ豆を食べるとその年は、病気になるらずに長生きすると言われていました。また焼いたイワシの頭とヒイラギを玄関に飾る地方もあります。イワシの頭を焼くと、その匂いを嫌って鬼が近寄ってこないとか、ヒイラギの葉はとがっていて、触ると痛いので鬼が逃げていくという言い伝えもあるようです。節分という行事には、邪気を払い「健康で過ごせるように」という人々の願いが込められています。みなさんも、素敵な春を迎えるためにこの寒い時期を元気で過ごしてください。



一期一会 (いちごいちえ)

これは、茶道で使われる言葉です。茶会に臨む際には、一生に一度の出会いであるということを得て、亭主、客ともに互いに誠意を尽くす心構えを意味しています。私たちは様々な人との出会いを繰り返しています。決して忘れられない出会いや、何かを決断するきっかけになる重要な出会いもあります。人は出会いによって成長していきます。それぞれの出会いを大切にしてください。

2月の花『梅』について

節分を過ぎる頃から、日本各地の『梅便り (うめだより)』が聞かれるようになります。水戸の偕楽園、奈良の月ヶ瀬、紀州の南部、京都の北野天満宮など古くから梅の名所は、数多くあります。原産地は中国の江南地方で、日本へは奈良時代に渡来しましたが、その時は解熱や咳止めの薬として使用されていました。花言葉は『高潔』『忠実』で、松・竹と共に『めでたいものしるし』とされています。



旅立ちの日に

卒業式が近づいてくるこの時期に多くの学校で『旅立ちの日に』の歌が歌われます。この歌は今から30年前の平成3年、埼玉県秩父市にある秩父市立影森中学校の「三年生を送る会」で発表するために、小嶋 登校長先生が作詞をして、音楽の坂本浩美先生がメロディーと伴奏を作曲しました。本当は先生たちから卒業生に贈る一回きりのサプライズの歌だったそうです。その後、全国に広がり、現在では小中学校の卒業の時期に多く歌われる曲となりました。

寒さに負けず進んで運動しよう

学校の授業以外で運動時間を調べると1週間の運動時間が7時間以上という割合が減少しています。特に、男子の低下幅が大きくなってきています。運動する時間や機会自体も減少しています。背景にあるのは、主なものでいうと、

「スクリーンタイム」と呼ばれる、テレビやスマートフォン、ゲーム機などを視聴する時間が増加していることが挙げられています。特に、小中学生の男子が長時間化しています。

小学生男子も中学生男子もスクリーンタイムが長くなればなるほど、体力が減少していくという相関関係が示されています。

この寒い時期こそ、楽しく体を動かす機会が多くなるようにしてください。



* 小学校のホームページには、カラー版の『中宮北小だより』を掲載しています。